

氏名： 小林 誠 (KOBAYASHI Makoto)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 法学修士 (Master in Law)
職名： 教授
専門分野： 国際関係論 (International Relations)
E-mail： kobayashi.makoto@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

国際関係／グローバルゼーション／国家権力／暴力／非国家アクター
international relations / globalization / state power / violence / non-state actors

◆主要業績

総数（2）件

- ・「ハードな戦争とソフトな戦争——グローバルゼーションの中の日本外交——」、進藤榮一・水戸孝道編『戦後日本政治と平和外交』法律文化社、160-168頁、2007年
- ・「グローバルゼーションと国際政治（1）——権力の領域化と脱領域化」、大久保史郎編『グローバルゼーションと人間の安全保障』日本評論社、55-72頁、2007年

◆研究内容 / Research Pursuits

国際関係の基本構造は、グローバルゼーションのもとで大きな変動を遂げている。とはいえ、ウェストファリア以来、時間をかけて形成されてきたそういった基本構造がことごとく推移したわけではなく、重大な慣性を残したまま新たな変容を付加していると見るべきだろう。

以上の問題点を、国家権力の脱領域的再編、国家アクターと非国家アクターの権力水準の多層化、国際規範の形成と暴力の新形態といった観点から分析し、これをグローバル・ポリティの萌芽的形成に結びつけて論じることが研究の内容である。

The fundamental structure of international relations has experienced a profound transformation in the era of globalization. We can not say, however, all the structure has vanished and that a new one has appeared. The former structure has a strong inertia and the new and the old dimensions has constituted a global actual figure of today, mixing with each other.

We need to analyze this point from the perspectives for (1) de-territorialization of state power, (2) the emerging international ethics, (3) new mode of global violence, (4) the competition and collaboration among state actors and non-state actors etc.

◆教育内容 / Educational Pursuits

社会科学的なセンスに弱く、そのために公共的なものへの参与意識が薄弱であることが、本学学生の共通の性格の一つである。この公共性が、今日のグローバル化によって国境を抜けて世界的に広がり、再編されていることが、現代的文脈では重要である。したがって、国家と国際関係の基本編成、暴力を抑制するための平和構築の試みを重点的に教えることで、本学学生にとって重要な学習の筋力をつけることに意をそそいだ。

Generally speaking, the students of our university have a common characteristics that they lack a sense of social science and that they have a negative attitude toward the "public." We should, on the hand, pay attention to the fact that the "public" has opened itself to the globe beyond national borders today. Accordingly, I am trying to make the students train themselves from the viewpoints of the fundamental structure of state and international relations, peace and violence and so on to open up the students' mind open to the global public sphere.

◆研究計画

2007年度から3年間予定の科学研究費補助金基盤研究(C)を得ており、権力の脱領域化を軍事力行使の新たな形態から分析する作業を引き続き進める。外交空間の変容に関わる理論・実証研究をとりまとめて外交政策についての著書にする作業は、以上の作業の一部として行う。またこのほか、成蹊大学基盤の共同研究で公正な世界秩序の構想について理論・実証研究を進める。

◆メッセージ

世界の中に私たちは立ちすくんでいるということをきちんと意識したい。海の向こうの出来事は、日常生活ともはや別々のものではなく、平和や暴力の問題も国境を超えて生起するものなのだ。